

社会科学研究所 2009 年度春季実態調査 行程

記：佐藤 康一郎

3 月 15 日 13 時 長崎空港集合

14 時 30 分より 15 時 30 分 株式会社たらみ小長井工場訪問

副工場長の中村隆司さんより会社概要の説明を受け、充填ライン、殺菌・冷却・乾燥ライン、検査・包装ラインの 3 つのラインを見学した。見学後に質疑応答の時間が設けられた。

ドライゼリー市場¹は現在、300 億円から 350 億円程度と推計されているが、株式会社たらみはこのうち、30%半ばのシェアを持っている。

小長井工場は春夏の繁忙期は日産 80 万個、秋冬のオフシーズンは日産 50 万個の生産をし、2 直体制をとっている。

また、昨今の低価格志向の影響を受けて小売価 100 円前後の商品やプライベートブランド (PB) 商品の売上が伸びているとのことである。



たらみ小長井工場にて

¹ なお、ここで言う「ドライ」とは乾燥という意味合いではない。食品商業分野にグロサリー (grocery) という語がある。グロサリーとは、食料品・生活雑貨・日用品などを総称する言葉 (生鮮食料品との対義概念) であり、転じて食料雑貨店のことを指す場合もある。このうち、冷蔵を要する食品 (日配食品：牛乳などの乳製品や豆腐などの大豆加工品等) を「チルドグロサリー」と呼び、冷蔵を要しない食品 (一般食品) や雑貨は「ドライグロサリー」と呼ぶことがある。ドライゼリーは食べる前に冷蔵することが多いが、保存は常温であるため、「ドライ」ゼリーと呼ばれる。

16 時

諫早湾干拓堤防道路の中間にある潮受堤防展望所から諫早湾と諫早湾干拓調整池を見学した。

諫早湾干拓事業は 1952 年に長崎県が諫早湾を堤防で閉じる「大干拓構想」を発表したことに始まっている。1989 年から防災と農地の造成を主な目的に潮受け堤防の整備事業が始まり、1997 年 4 月に潮受け堤防を閉鎖した。そして 2007 年 11 月に完工し、2008 年 4 月より営農が始まった。

潮受け堤防を閉鎖してから水質汚濁が始まり海苔の色落ちなどが発生したので、沿岸の漁業者から「潮受け堤防の閉鎖」との因果関係を指摘する声が上がっている。

17 時 長崎全日空ホテルグラバーヒル到着

3 月 16 日

9 時 20 分 長崎全日空ホテルグラバーヒル出発

9 時 40 分より 10 時 20 分 長崎市職員会館 4 階会議室

長崎市産業情報支援センター主幹 稲田龍也さんおよび長崎市商工部産業振興課中小企業係主査 谷本祐二さんから長崎市の製造業・商業・文化振興、長崎市経済成長戦略、長崎市の人口動向などについてレクチャーを受ける。



長崎市職員会館にて

全生産額に占める製造業の割合は全国平均で25%ほどであるが、長崎市はイメージと異なり12%ほどである。近年の企業誘致も全日本空輸の予約センターやAIG スター生命・アリコジャパン長崎コールセンターなどサービス中心になっている。

また商業については、長崎市の旧来の繁華街である浜町の商店街の衰退が目立つ。長崎県全体で約6,000億円ほどの売上高があるが、実際は佐世保市に本社を置く、株式会社ジャパネットたかたがおよそその3分の1を占めており、長崎県北部が中心になっているとのことである。

今後長崎市の人口は年間4,000人ほどペースで減少していき、現在の45万人から2030年には35万人へ減少すると推計されている。

10時20分より11時30分 質疑応答

午後からは稲田さん、谷本さんに長崎市商工部産業振興課長崎市中心企業サポートセンターのものづくり改善相談員である黒岩征也さんが加わり、お三方同行の上で、2つの事業所訪問を実施した。

13時25分より14時45分 長崎船舶装備株式会社訪問

長崎船舶装備株式会社は、船舶、海外、インテリア、エンジニアリングの4つの事業部門を持つ。われわれは今回、総務部総務課長 兵働馨さんらの案内で船舶事業部門の船舶居住区内装工事・施工や船舶居住区内装システム、船舶向け家具製作などについて説明を受けた。その後、家具工場と鉄工工場の見学を行ない、質疑応答を実施した。

船舶装備品は、エアコンが室内に効いているので湿度の懸念はないが、エンジンの振動により歪みが出る可能性があるため、留意しているとの話があり、船舶内装品製作の特殊性を改めて意識することになった。

15時より16時20分 三菱長崎機工株式会社訪問

冒頭に取り締役社長 白石耀穂さんより挨拶の後、会社案内ビデオを視聴し、会社概要を説明いただいた。続いて、環境技術推進室主査 篠原信之さんより亜臨界水処理プラントの概要についてビデオを交えて説明を受けた。質疑応答の後、製缶工場や機械・組立工場を見学した。この工場ではリングローミングミルによるベアリング用リング素材の製造や熱間鍛造プレスで各種プレス類を製作している。

その後、プラント見学のために長崎市西部下水処理場へ移動する。



三菱長崎機工にて

16時45分から17時15分

長崎市神ノ島にある、長崎市西部下水処理場にて下水汚泥の亜臨界水処理実証プラントを見学した。このプラントは、家庭から排出される汚水を処理する過程で排出される汚泥を亜臨界水により低分子化させ、高速高効率でメタン発酵処理し、汚泥内の有機物をバイオガスに転換するものである。



長崎市西部下水処理場にて

この技術により脱水汚泥を従来の3分の1から5分の1程度まで減容化できる特徴を持っている。つまり、産業廃棄物処理費用も従来の3分の1から5分の1程度まで縮減できることになり、とても経済的である。またこのプラントの動力エネルギーはバイオガスが用いられるため、設備電力以外は外部エネルギーを使用せず、環境への配慮が十分になされている設備でもある。

17時40分 長崎全日空ホテルグラバーヒル到着

3月17日

10時 長崎全日空ホテルグラバーヒル出発

10時30分から11時30分 三菱重工業株式会社長崎造船所史料館見学

三菱重工業株式会社長崎造船所史料館は、長崎市飽の浦町にある三菱重工業長崎造船所飽の浦本工場内にある企業博物館である。史料館には、1857年に溯ることができる三菱重工業長崎造船所の発祥（長崎造船所前身の長崎溶鉄所建設）から現代までの長い歴史を物語る膨大な資料が展示されている。

史料館は1898年に鋳物工場に併設の木型場として建てられた建物で、1915年に延長・増築され1945年8月には被爆もしている。1985年に改装し、資料館となった。

官営期、三菱創業期、明治後期、大正期、昭和戦前期、戦艦武蔵、会社生活、貴賓御来訪、発電プラント、戦後の造船、客船など館内を11のコーナーと中央及び奥の展示場に分けて展示されている。

13時10分から16時軍艦島上陸クルーズ

14時に軍艦島に到着し、1時間ほどボランティアガイドの案内で見学した。端島は南北480m、東西160mほどの小さな島で、この大きさは概ね日本の標準的な競馬場と同規模である。端島はその外観が軍艦に似ることから、「軍艦島」と呼ばれる。

長崎市は2008年度予算で軍艦島の整備に1億500万円を計上し、見学用の通路を整備に取り掛かかり、2009年3月に島の南側に幅2メートル、長さ230メートルにわたる通路を完成させた。そして、2010年4月20日に軍艦島上陸解禁一周年を迎えた。

長崎市観光総務課によれば、1年間の上陸者数は5万8851人に上り、長崎市が当初予測していた2万人のおよそ3倍になった。また財団法人ながさき地域政策研究所の推計では、経済効果は

17億8000万円（直接効果約10億6千万円・波及効果約7億2千万円）となっている²。

軍艦島は明治時代初期から石炭の採掘で栄え、1960年頃の最盛期には300世帯5000人以上が住んでいた。大規模鉄筋アパートは9階建て、700人の児童が通ったという学校も7階建てで当時の人口密度は東京23区の9倍以上に達したそうである。ガイドさんの話では、高層アパートの中には売店や保育園、派出所、郵便局、パチンコ屋などが地下や屋上に設けられたものがいくつかあり、また各棟をつなぐ複雑な廊下は通路としても使われ「雨でも傘を差さずに島内を歩ける」と言われたとのことで、往時の軍艦島の繁栄や先進性はかなりのものであったと感じた。

炭坑が閉山された1974年以降、軍艦島は無人島となり、当時の建築物や街の様子はそのまま残された廃墟として残っている。この軍艦島は、日本がどのように近代化していったのかという歴史の一端をはっきりと示している場である。また、すべてを消費し尽くすようになるのかという警鐘を鳴らしている。そしてその姿はハリウッド映画を凌駕するほどリアルで衝撃的なものであった。

16時30分 長崎空港解散

以上

² <http://www.think-nagasaki.or.jp/semina/101gunkannjimakeizai/keizaikouka1.pdf>